

私が考える健康住宅とは…」

健康な住宅とは、そこに住む人にとって、心理的にも生理的にも望ましい居住環境を実現した住宅の事であるといわれています。また日本健康住宅協会の「水環境部会」では、住まいの水まわりを健康に保つための研究活動も展開しておられます。

ところで、21度目の引越しを経て、6度目のマイホームに住む、私の過去の体験から考える健康住宅の最大のポイントとは、広い意味での「水」であると思います。

住宅を建てる場合は、「水」を最大のコンセプトにして考えるべきではないでしょうか。

私が子供の頃は、吉野三山の一つで有名な白銀岳（銀峯山）の山麓に住んでいましたが、飲料水は、120m程離れた水源地から引いていました。戦後の事なので塩ビパイプなども無く、竹を使っていました。太い竹を切って来て、鉄の棒で中の節を払い、松の丸太を切って両側からノミで穴を開け、竹と竹を継ぐジョイントにしていました。松のジョイントの間隙から水が漏れるので、キリで脱脂綿を押し込む補修作業をした苦労が思い出されます。吉野の山水は実に清らかで旨く、家の中の水槽に流れ落ちる水音が、静かな環境の中で一日中リズムカルに聞こえるのが何ともいえず、心理的にも好ましい環境でした。たまに大阪などに遊びに行くと、薬品の臭いが強烈でこれが都会の臭いかなと思ったものです。西吉野の家は水源地の近くの、山の斜面に建てている為、家の上と下には各々長さ70m近くの石垣があります。石垣の高さは下が6m位で上が3m位ですから、何百年も前にどのようにして、このような大きな石を運んできたのかと思うと不思議です。石垣は立派でびくともしないように見えますが、山頂は台風で木が倒れたり、開墾されたりした為、山上からの土砂災害が起こらないかという心配はあります。山頂には明治維新の魁となった「天誅組」が本陣を置いたという波宝神社があり、峰続きの竜王山の上には「海神神社」も祭られています。竜王は水の神様ですが、吉野の山中にこのような海の神社が祭られているのは大変興味深いです。

今では、水道が普及して井戸水を使うところは少なくなりましたが、昔は田んぼの中に井戸を掘り、生活水に使っている所がありました。鉄分を含んだ黄色い水をお風呂や洗濯水に使っていたので、白い下着も一度洗濯すると黄色くなるという体験もしました。そのような環境の中に住んでいた学生のころ、ユースホテルの山の温泉に行って、清らかな湯に浸かったものですから、一辺に温泉好きとなり、今でもよく温泉には出かけます。

ところで、住宅を建てる時にまず注意したいのは水はけです。水はけが悪いと、住宅が不同沈下する場合があります。特に00台とか名前の付いた新興住宅地は要注意です。山を削り谷を埋めて造成し台地にしています。造成する前の「切り盛り図」を入手して家を建てる必要があります。切り土と盛り土の境目に家を建てる場合は特に要注意です。「切り盛り図」を見ずに、サウンディング調査だけして、岩盤であると思っていたら、家の敷地の10数メートル下を、対角線上に昔の川道があったなんて事も有り得ます。

住宅の上側に山がある場合も水の心配をせねばなりません。造成した山の斜面や上側の道路には側溝が設けられていますが、この側溝はコンクリート造りであり、各所で漏水します。

もともと、一滴も水を漏らさず下に流そうという発想で作られたものではありません。従って、漏水が激しい所では、地下水となって下側の家の庭に湧き出たりします。その上、20年以上も経過した住宅地の場合

は、各家の庭にある雨水排水マスからも漏水します。塩ビ管をコンクリートマスに接続すると相性が悪く、接続部の隙間から水が漏れます。針のような隙間であっても、水を求めて庭木の根が入り込みます。根が入り込んだり、土砂が溜まったりして、屋根に降る雨が全て家の敷地内に漏水しているケースもよく見られま

す。この場合は、自分の家の不同沈下の JL 配もありますが、下側の家の庭に湧水となって溜まる場合もあります。上方の道路などの側溝からの漏水と、上方の家々の庭での漏水が地下水となって、下方の家の庭に流れてくると大変です。家の基礎山側沿いに敷設されたガス管や水道管を伝って谷側に流れてきます。従って、谷側に玄関がある場合は、玄関下の門やガレージ辺りのコンクリートの隙間が常に濡れているという兆候が見られます。コンクリート擁壁の水抜き穴から不自然に水が出てくる場合がありますが、それはまれなケースです。このような危惧のある場合は、家を建てる時コンクリート擁壁の水抜き穴の位置を底面すれすれに設ければ早期に発見できます。上記のような原因だけでなく、施工不良による、給湯配管の破損による水漏れや、雨水排水管の接続部分からの水漏れはよく見られます。給湯配管の破損の場合は発見が遅れます。室内の漏水には気を使っていますが、屋外の水漏れには寛大な業者が多いので要注意です。庭の真ん中に大きなすり鉢状の穴を設け、コンクリートで舗装して、真ん中から排水管に継ぎ、その上に砂利を敷き詰めた庭は排水もよく快適でした。パティオの中には雨水を引き込まないような配慮も肝要です。最近人気のある庇の無い家の場合、壁面を流れる雨量に対する配慮も必要です。風向きや立地条件によっては屋根に降る量よりも多い雨水が壁面を伝って流れ落ちます。従って、家裾を犬走りにして排水を考えるなどの配慮が無いと不同沈下の原因になります。この場合、トイを出来るだけ大きく太くすれば、少しは庇代わりにもなります。デザイン優先で、庇にトイが設けられていない場合もいろいろな弊害が出ます。庇が無い家の場合、窓枠からの漏水が最大の脅威ですが、屋外に取り付けたライト類の器具の隙間からの壁面内への漏水も要注意です。庇があれば防げるような事故が多いものです。庇の無い家の窓にはシャッターや雨戸も欠かせません。昔ながらの切妻屋根のシンプルな家が漏水に対しては一番安心であるといわれていますが、屋根の4隅から、雨水や霜解け水が落下する場合があります。これは、トイを長くすれば簡単に解決するのですが、デザインを優先して、トイを短く納める為に発生します。雨水は屋根だけではなく、床下に漏水する場合もあります。基礎工事の時、両側に板を立てて、コンクリートを流し込み、固まったら板を外すとき、留めたボルトを切り取るという古い工法の場合は、腐食したボルト沿いに外部から床下に水が入ってきます。給湯配管の破損の場合は管を被っているものと管の間を伝って、床下の立ち上がり部分に漏水する事があります。そのようなわけで、床下の点検口は少なくとも2箇所設けることを奨めます。

屋内にトイレの臭いがする時は、手洗い排水管の接続部分を調べましょう。後で施工する上からの排水管が細すぎて、下側の受けの管との間に隙間がある事があります。トイレといえば、2階水洗便器の吸気口も要注意です。外部に出さずに屋根裏から吸気する方があらゆる面で無難です。庇の無い家の窓枠からの水切りも大切です。バルコニーの手すりのコーナーやそこに取り付ける洗濯干し場のアームの部分からも水が垂れ流れて水汚れで壁面が青黒く汚れます。水切りを工夫したものを設置しましょう。バルコニーや階段や通路や犬走りの傾斜は充分に取るようにしないと水が溜まります。アルカリ骨材反応による白華現象や、蚊の発生源になったり、冬季は凍って危険ですので無用な水溜りは作らない事。雨水排水マスにはネットをかぶせることも蚊の予防になります。蚊といえば、ガレージのトイも要注意です。トイが細く、傾斜がほとんど無いからです。家の周りの外構は化粧ブロックが無難ですが、吹き付けにしたりする場合は、笠木を忘れず、家の内側に傾斜を付けるとよいでしょう。屋根の雨水排水管は、家の内側に導かないで、最短距離で家の敷地の外に出すよう設計したいものです。汚水排水管はもちろんですが、雨水排水管も出来るだけ傾斜を大きく取らないと敷地内で留水・漏水します。雨水は綺麗だから、各所で漏水させるのが地球に優しくよいなどという業者も居ますので、しっかりとこちらの意向を伝えてウオッチすべきです。最後になりましたが、真空ガラスなどの高断熱ガラスを使って結露を防止することも忘れないようにしたいものです。